



段取り八分とは

- 大不況の今だからこそ来年の計画は12月中に立てよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. ごあいさつ

(1) 日暮れの時間が一日、一日と早くなる季節となりました。日頃は開倫塾の教育方針を御理解賜りまして有難うございます。心より御礼申し上げます。

私は、開倫塾の創業者であり、また、全体の経営責任者である塾長の林明夫です。どうかよろしくお願い申し上げます。

(2) 開倫塾は、この夏の栃木県さくら校と真岡校に引き続き、11月末日には茨城県筑西市駅北に下館校と栃木県小山市駅西に小山校を開校させて頂きました。新校舎の塾生、保護者、地域社会の皆様、ようこそ開倫塾にご入塾頂きました。心より歓迎申し上げます。

(3) この開倫塾塾長通信は、毎月1回初旬に開倫塾ニュースとともに、塾生、保護者、地域社会の皆様にご送付させて頂くものであります。少し分量は多めかもしれませんが、私が担当する「開倫塾ニュース」巻頭言に付け加えて皆様にお伝えすべき内容を毎月お送りするものであります。

(4) 是非、一度御通読頂いてから、家の中の決まった場所に保存して折に触れ何回かお読み頂きますことをお願い申し上げます。

(5) 私は、教育の目的は、「人間としてよく生きること」つまり「人生の成功」と「正常に機能する社会(持続可能な社会)の形成」に自分なりの形で寄与することであると考えます。

そのためには、学校時代の教科学習と教科以外の様々な活動を基礎に、一生涯自分なりの方法で学び続け、たとえささやかなことであっても自分の夢や目的の達成に向かって歩み続けることが大切と考えます。

(6) この開倫塾塾長通信は、以上のような私の思いを込めて毎月お送りさせて頂いているものであります。

感謝

今月号の開倫塾ニュースの内容であります、是非もう一度お読み下さり、12月中に新しい年2010年の計画をたとえ一つでもよいですからお立て下さい。きっとお役に立つと思います。

段取り八分(だんどりはちぶ)とは

12月中に来年の計画を立てよう

開倫塾

林 明夫

Q 段取り八分(だんどりはちぶ)とは何ですか。

A (林明夫。以下省略)私の小学校と中学校の同級生で大工さんをしている渡辺茂さんから教わった言葉です。

家を建てる大工さんの仕事で大切なのは「段取り(だんどり)」、つまりものごとを段階を追ってやっていく手順である。Aという作業をして、それが確実に終わってからBという作業をし、それが確実に終わってからCという作業をする。一つ一つの仕事を確実に終わらせてから次のステップに進む。上の階に行くときは階段を一步一步踏みしめて確実に上っていかなければならないように、大工さんの仕事は一つ一つの仕事を手順を追って確実に行うことが大事。

段取り八分というのは、仕事を始める前には段取りつまり仕事の手順をよく考えておくことが大事で、よく段取りを考えておけば仕事の八割方は終わったと同じであるという意味だと私は考えます。このように、大工さんの仕事は「手順」、どのように仕事を進めるのかを頭のシンが痛くなるくらい考えに考え抜くことで結果が決まるということ、渡辺大工さんは私に教えて下さったものと思われま。

Q 塾長は私たちに何が言いたいのですか。

A 勉強も同じだということです。どのような段取り、手順、段階を踏んで学んでいけば勉強の成果が出るのかを、自分自身でよく考えてはどうかということです。

新年になってから今年はどうするかということを考えてもよいですが、段取り、手順を考えて準備をスタートするのは新年を迎える前、つまり12月中がよいと私は考えます。

12月になったら新年の目標を決め、その目標達成のために新しい年はどのような段取りで過ごすのかをじっくりと考えましようね。

Q 新年の目標とその目標を達成するための段取り、手順を考えるためには、具体的にどのようにしたらよいのですか。

A (1)まずは、今年一年はどうだったかを自分の力でじっくりと思慮深く振り返ること(自省すること)が大事です。人間として生きている上で大切なのは、「自省」、「省察」、「思慮深さ」です。しっかりとこの一年を振り返って下さいね。

(2)次に、来年はこんなことを成し遂げたいというゴール、つまり新年の「目標」を自分の力で立てましよう。勉強の面、生活の面、その他の活動の面と3つの面でゴール、目標を立てることを私はお勧めします。

(3) その一つ一つの面の目標、ゴールを達成するために来年 1 月からどうしたらよいかを、12 月中に腰を落ち着けてじっくり考えましょう。できればノートや紙を手元に置き、思いついたことや考えたことをどんどん書いてみましょう。

(4) 大晦日の 12 月 31 日まで真剣に考え続け、除夜の鐘の音を聞きながら、また、1 月 1 日の元旦に清々しい気持ちで、新しいノートや手帳に決意をまとめるとよいでしょう。

(5) 年が明けたら、そのノートや手帳を取り出して毎日じっくりとながめ、困難なことも多いかもしれませんが、なるべくその計画通りに実行していただくことです。「段取り八分」、手順を十分な時間をかけて考え、確実に階段を上るようにその手順を踏みさえすれば、必ず目標は実現されます。

(6) 目標を考えてその実現のための段取り、手順を考えない限り、目標が実現されることは絶対にありません。

Q 12月にした方がよいことは他にありますか。

A 「5S」活動をお勧めします。

Q 何ですか、その「5S」とは。

A 整理、整頓(せいとん)、清掃(せいそう)、清潔(せいけつ)、躰(しつけ)のローマ字の頭文字の5つのS(エス)をとって「5S」といいます。

12月には、自分の部屋や自宅、お世話になっているところを整理、整頓、清掃をして清潔にしてくださいね。身近な場所の「大掃除(おおそうじ)」をどんどんしてみましょう。自分も気持ちがいいですし、皆さんからも喜ばれますよ。

Q 「5S」の最後の「躰(しつけ)」とは何ですか。

A 「躰(しつけ)」が身に付いているとは、「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」と、「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」ができることをいうのだと私は考えます。

「立居振舞い」には所作(しよさ)だけでなく服装や髪型、化粧なども含まれます。自分が見て美しいと思うだけでなく、周りにいる人が見ても美しいことが大切です。

「敬語表現を含む言葉遣い」で大切なのは、丁寧語つまり「です・ます調」で丁寧(ていねい)に話すことができることだと私は思います。

Q どのようにしてこの2つの「躰」を身に付けたらよいのですか。

A 華道や茶道、弓道や剣道など日本に昔から伝わる文化・芸術活動、スポーツに親しむことです。ヤンキースの松井秀喜選手をはじめ、感じのよい立居振舞いや言葉遣いを身に付けた人を模範にすることも大事です。

言葉は言霊(ことだま)ともいい、人の心を表すものです。一つ一つの言葉を大切にすることも心掛けましょう。美しい文章を読むことも興味深いと思います。どうしたらよいか、自分でも考えてくださいね。

よいお年をお迎え下さい。

- 2009年11月19日記 -

今回と同じテーマで書かせて頂いた、4年前の内容です。12月に入ると、このことだけは皆様にお伝えしなければと、毎年思い立ってしまいます。ただ、テーマは同じでも内容は異なりますので、御参考までにお読み下さい。

「段取り八分」を考える 来年の準備は12月中に終えよう

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：「段取り八分(だんどりはちぶ)」とは、どのような意味の言葉ですか。

A：(林。以下略)小学校時代からの親友で、大工をしている渡辺茂(わたなべしげる)さんから教えてもらった言葉です。日本の建築様式で家を建てようとする時、大工さんは、その「準備作業」つまり「段取り」のために、自分の持っている十のエネルギーのうちの八を使うのだそうです。エネルギーの大半を使ってまでも「準備作業」を十分に行えばよい仕事ができる、これが「段取り八分」の言葉の意味です。

Q：「段取り八分」の考えは、勉強にもあてはまりますか。

A：はい、大いに活用可能です。あと1ヶ月もすると新年を迎えますが、皆様は2006年をどのように過ごしたいとお考えでしょうか。新しい年を充実したものにしたいと考えるのであれば、新年を迎えるまでにそれに向けての準備を着々と進めるべきであると私は考えます。

「段取り八分」の心入れで新年を迎えるまでに十分準備すれば、自分の思うような形で新しい年を迎えることができます。何も考えず何も準備しなければ、「時間に流されてしまう」だけの1年になってしまいます。

Q：では、まずはじめに何をしたらよいのでしょうか。

A：小さなものでもよいので、この1年間に何をしたいかという具体的な目標を1つないし2つ決めることです。明確で、かつ具体的な目標があるかないかで、1年間の充実度は天と地ほど違ってきます。

ものごとはすべてといってよいほど、「こうしたい」「こうありたい」と思って努力を重ねない限り実現しません。努力をせずともたまたま実現することはありますが、それは本人が有難いことだと思いませんから、大切に思い大事にすることがありません。砂上(さじょう)の楼閣(ろうかく)、つまり砂の上につくられた城のようにあっという間に崩れ去ってしまいます。

小さなものでもよいので、新年を迎えるにあたって具体的な目標を決め、それを達成するための準備を12月早々から着々と進めることをお勧めします。

Q：まず目標を決め、次に、その準備を着々と進めるということですね。

A：はい。目標が決まるということは、「自覚」が生まれるということです。高い学習効果を得るためには、本人の「自覚」が最も必要です。自分自身の「自覚」を促すために、ぜひ明確な目標を決めて下さい。

Q：準備は、どのように進めたらよいのですか。

A：まず、机の上や中など、勉強する周辺を片づけるとよいと思います。その上で、目標を実現させるために行うべきことを1分以上時間をかけて1つ決め、さらに1分以上の時間をかけてやってみてください。

ところで、新しいことをするために1分以上の時間をかけるということは、今までやってきたことをその時間の分だけ中止する、やめるということの意味します。つまり、何かをするためには何かをやめなければならないということです。数ある中から何をやめるかも考え、実際にやめることです。

これには、自分自身の生活を少しだけ変えるという勇気が要ります。「捨てなければ得られない」つまり、何かを捨てなければ得られないこともありますので、何を捨てるかも併せて考えて下さい。

Q：「捨てなければ得られない」ですか。含蓄のある言葉ですね。

A：20年近く前になりますが、京都の一燈園で石川洋先生から教えていただきました。有難く思い、今も大切にさせていただいております。

師走(しわす)となり何かと忙しいとは思いますが、新しい年に向けての目標づくりとその準備について考えるために、時にはゆっくり立ち止まってみてはいかがでしょうか。

1年前に発生した世界的大不況は、その後増し、また、幅を広げて我々の前にデフレという形で迫ってきました。開倫塾の塾生であっても、社会の大きな変化を自分なりに「理解」し、どうすればよいかを自分の力で考え、行動に移すことが求められます。嘆いてばかりいても状況は一向に変わりません。3回シリーズの私の文章をお読み頂ければ幸いです。

大不況期の過ごし方を考える

- 現状をしっかりと見すえた上で、自分自身の手で未来を切り開こう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：日本を含め世界中で大不況のようですね。

A：(林明夫：以下省略)その通りです。1929年からの世界大恐慌のようにならないように、日本や世界のリーダーたちが立ち上がり、各国が力を合わせながら、各々国としてできる最大限の努力をしています。

Q：このような大不況の時期は、どのように過ごしたらよいとお考えですか。

A：まずは、現状をしっかりと見すえることが大事と考えます。各国の歴史や世界史の教科書に必ず載るような出来事が、何週間か前から発生しています。新聞を毎日一面からしっかりと読んで、日本や世界で何が起きているのか、日本や世界のリーダーたちは、それにどう対応しようとしているのかを「理解」して下さい。「新聞を読んで自分の力で考える」ことが、今ほど大切な時期はありません。

Q：日本や世界の現状を「理解」した上で、何をしたらよいのでしょうか。

A：大不況という時代に合った生き方をする以外にありません。大不況という時代は、お金がどんどん出ていく割にはお金が入ってこない、つまり「金まわり」が極端に悪くなる時代です。そのような時代に、自分で自分の身を守るために一番よいのは、「もったいない」の生き方に徹することであると私は思います。ものを大切に大切にすること。お金は大切に使うこと。今やっていることを大切に、まじめにしっかりと行うことが大切です。

Q：例えば、どのようなことですか。

A：(1)今、学校で学んでいる人は、この大不況の時期に「学校で学ぶことができること」を大切に考えて、今、学んでいることを学校にいる間にしっかりと身に付けることです。

「ノート」や「筆記用具」は最後まで使い切る。「教科書」や「参考書」はスミからスミまでしっかりと「理解」した上で「覚え切る」。教室など学校の施設や自宅の自分で使う部屋を整理整頓(せいりせん)し、いつまでも使えるようにする。

(2)食べ物は、自分で食べられるだけ食器に取り、ゆっくりとかみしめながら食べ、残さないようにする。

(3)病気がある場合は、どんどんお医者さんに診てもらい、全力を傾けてできるだけ早く治すよ

うにする。病気とは真正面から闘う。できるだけ病気にならないように、最大限気をつける。
(外から帰ったら、薬用石けんで手のくるぶしまで 2 回洗い、うがいを何回もすることで、病
気にならないようにする。食後の歯みがきは、おっくうがらないで毎食後確実にやる。歯科医
院に定期的に行き、虫歯をつくらない。etc.)

Q：随分(ずいぶん)基本的なことですね。

A：この大不況は、これから何年間か、日本だけでなく世界中で続くと思われま。学校を卒業した
人が仕事に就くことが難しい、今仕事に就いている人が仕事を失うことも多くなる時代に入って
いく可能性が極めて高い時代に、日本だけでなく世界中が入っていくとも思われま。

ですから、学校で学ぶ皆様も含めて、この世の中で生きている人は一人残らず、新聞を考えなが
ら読むことで、今世の中で起こっている現実をしっかりと冷静に認識した上で毎日の生活をしっかりと
見つめ、一步一步着実に、今やれることを確実にやり抜くことが求められると考えま。

Q：最後に一言どうぞ。

A：このような時こそ、「何のために自分は生きるのか」、「どのような生き方を自分はしたいのか」、
「何のために上級学校に進学するのか」、「そのためには今何をしなければならないのか」などの
一見難しいと思われることを、腰を落ち着けて深く考えることが大事かと思いま。

人間の歴史の上で、今日ほど物があふれ、お金や情報が行き交う時代はありません。今でも、明
日食べる物がなく生活に困っている人々は何十億人もいま。日本にもそのような方はたくさんいま。
たとえ小学生、中学生、高校生であろうと、日本や世界の現実を自分なりに直視し、自分の
生き方を自分の力で決め、自分の責任で生き抜く時代に入ったと私は考えま。

一番大切なのは、「高い志(こころざし)」です。自分に与えられた社会的使命(mission、ミッシ
ョン)とは何かを自覚して、一生を生き貫くこと。「一所懸命」に「一つの所で命を懸けるくらい
熱心に」、勉強に、仕事に、社会活動に、また、よい家庭をつくる、よい地域社会をつくるために、
一人ひとりがその人なりに努力をする。このような生き方が求められるのが、既に迎えてしまっ
た大不況の時代であると私は考えま。皆様は、どのようにお考えになりますか。

- 2008 年 10 月 16 日記 -

御参考までに

(1)「読書の秋」です。このような時代にこそ、人々は困難な時代をどのように乗り切ったかを
知るために、日本や世界の人々の「伝記」をじっくりと読むことをおすすめしま。

一番のおすすめは、幕末から明治維新を生き抜いた福沢諭吉の「福翁自伝(ふくおうじでん)」
です。シュリーマンの「古代への情熱」も、何のために生きるのかを考える上でとても参考に
なります。「伝記」を読んで興味がわいてきたら、その当時の歴史や地理などを調べてみると、
よい勉強になります。

(2)この秋に皆様の前で起こっている世界恐慌発生寸前の大不況や、世界中がスクラムを組んで
そうならないように取り組んでいることは、何十年後に日本史や世界史の教科書に必ず載るよ
うな内容です。そのような日本や世界の歴史の上で重要な出来事のまただ中に、今我々は暮
らしていることを考え、新聞だけは毎日一面からじっくりなめるようにお読みになることを、
また、大切と思われる記事は切り抜き、スクラップブックに貼り付けておくことをおすすめ
しま。

大不況期の過ごし方を考える(2)

- 毎日を大切に生きよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：大不況に入ったといわれますが、どのように過ごしたらよいのですか。

A：(林明夫。以下省略)なぜ大不況になったのか、どのようにこの大不況の時期を過ごしたらよいのか、乗り越えたらよいのかを、新聞を読んで考えることをお勧めします。年末・年始には大不況についての大特集が組まれますので、じっくり新聞を読み込むことが大切です。TV やラジオ、雑誌も「大不況」特集を組みますので、大いに勉強して下さい。新書本などで単行本もどんどん出版され始めましたので、腰を落ち着けて本をゆっくり読んで、「大不況」について考えてみましょう。

まずは、どうしたらよいかを「自分の頭」で考えることです。自分の身は自分で守る以外にありません。

Q：塾長は、相変わらず厳しいですね。

A：「大不況」について新聞などで自分なりに勉強した上で、2008年秋からは何年か前の状態とは全く違った状況に世界中が入ったと考え、つらいかもしれませんが、少し厳しく、まじめに毎日をお過ごしになるほうがよいと考えます。

Q：具体的には、どうしたらよいのですか。

A：学校で勉強できる現在の自分は「幸せ」であると考え、学校での教科の勉強はもちろんのこと、部活動、クラブ活動、学校行事、学級会活動などすべての学校での教育活動に、まじめに、真正面から取り組むことです。

学校での勉強は、教科も、教科以外のすべての活動も、世の中に出てすべて役に立ちます。厳しい経済状況の下でも「学校や開倫塾で学ぶことのできる幸福」を十分にかみしめて、学校や開倫塾での1時間1時間を大切に大切に過ごして下さい。

学校の授業で「理解」したことは、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」を丹念にやり抜き、すべて正確に身に付けること。「予習」でも「理解」することはできるので、「予習の仕方」を自分なりに身に付け、一人で「予習」できる科目は誰に遠慮することなくどんどん「予習」をし、「得意科目」を一つでも多くつくること。

「理解」できないこと、つまり、よくわからないことがあったら、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問することも大切です。

学校や開倫塾の先生を、大切なことを教えて下さる「恩師」として尊敬すること。学校や開倫塾、様々なところで共に学ぶ友人は、「学友」として励まし合うこと。家族は互いに尊敬し合い、大切にすること。

状況が厳しいのですから、身近にいる家族や先生、友だち、地域の人々を尊敬し、かけがえのない大切な方々を、自分と同じように、また、自分以上に大切にすることです。

今やっていること、自分の身近にいる人すべてを慈(いつく)しみ、大切に大切にすること。あらゆるものやあらゆる人を、そのまま認めること。許すこと、寛容な心・広い心を持つことが、大不

況期の大切な過ごし方だと私は確信します。議論は十分すべきですが、争わないこと、協力し合うことが大切です。

Q：何か特別にやったほうがよいことはありますか。

A：物やお金は大切にすることです。物やお金がなくても、恥ずかしいと思わないこと、欲しがらないこと、我慢すること、もっと言えば、耐え忍ぶことが大切です。耐え忍ぶのも大切な能力です。

これからは、物やサービスが今までのように買えないことが多くなりますので、耐え忍ぶ能力が身に付いていないと、人の物を盗んだり、人をだましたりすることになります。

身のまわりの物を大切に使うこと、購入したサービスを上手に活用することも大切な能力となります。

私の今乗っている自動車は、先日、走行距離が 51 万 7 千キロを超えました。自動車の性能がよく、また、整備会社の人々の能力が高かったためと思われませんが、大切にすれば 50 万キロ以上走る自動車もあります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：私は、皆様にも足利商工会議所が推進している「5S」をお勧めします。「5S」とは、「整理(せいり)」「整頓(せいとん)」「清掃(せいそう)」「清潔(せいけつ)」「躰(しつけ)」を表すローマ字の頭文字 S をとったものです。

「躰」とは、「美しい立居振舞(たちいふるまい)」と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」を意味すると私は考えます。

大不況の時期こそ、自分のことだけでなく、「高い志(こころざし)」「公共(こうきょう)の精神」を持って、社会のために生きることを考えることも大切だと思います。

皆様はどのようにお考えになりますか。

新年もよろしく願いいたします。

- 2008 年 12 月 17 日記 -

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)
(栃木県社会教育委員)

大不況期の過ごし方を考える(3)

- 自分の潜在能力を自分の力で発見し、自覚をもって学び続けよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

Q：開倫塾の塾生である小学生・中学生・高校生であっても、この大不況を意識して生活したほうがよいのですか。

A：(林明夫。以下省略)開倫塾で学ぶ小学生・中学生・高校生であっても、既に起こってしまった厳しい現実としてこの大不況を意識し、学び続けたほうがよいと考えます。

2. 自分の潜在能力を自分の力で発見しよう

Q：では、どのように大不況期を過ごしたらよいのでしょうか。

A：まずは、自分の力で、自分の潜在能力を発見する努力をすることです。自分の中に潜在している、潜(ひそ)んでいる能力を自分の力で発見し、それを伸ばすことが大切と考えます。自分の長所・よさを自分の力で発見し、その長所・よさを自分の力で伸ばすことも言えますね。

自分の潜在能力や長所を発見することは、一つの能力です。この能力を身に付けるために、身近な人の潜在能力や長所・よさを一つでもよいから見つける努力をすることを私はお勧めします。自分の家族や近所の人、友達、先生だけでなく、自分の住む地域や自分の通う学校、市町村、県、日本の潜在能力や長所・よさを一つでも自分の力で発見することで、この能力を身に付けることです。

自分自身のことは、意外と見えにくくわかりにくいので、自分以外の人やもの、社会の潜在能力や長所・よさを発見する訓練をすることで、自分の潜在能力や長所・よさを発見する能力を身に付けたらよいのではないかというのが私の考えです。

そのためには、人やもの、社会をよく見ること、観察することが求められます。どうか、温かい目をもって自分以外の人やもの、社会を見つめて、その潜在能力や長所・よさを一つでもよいから発見して下さい。自分自身のことも温かい目で見て、自分の潜在能力や長所・よさを一つでも自分の力で発見するよう努力して下さいね。

3. 自覚をもって学び続けよう

Q：自覚とは何ですか。

A：自分自身の立場・状態・能力などをよく知ること、わきまえることを「自覚」と言います。学力も含め能力を身に付けるのに何が大切かといえば、「本人の自覚」と「先生の力量」であると私は考えます。自分自身の立場・状態・能力などの中には、自分の潜在能力や長所・よさも入りますね。これらをよく知った上で学ぶことが大切です。

これに加えて、自分の不足する能力・改善すべき点、はっきり言えば短所・欠点も、自分自身の力で発見し、そのことをよく知った上で、つまり「自覚」して学ぶことも大切です。だからといって、自分自身を責めないようお願いします。

Q：他の人にも短所や欠点はありますよね。

A：その通りです。誰にも短所や欠点はあり、他人ほど本人以上によくわかるものです。だからといって、他人の短所や欠点は責めないことが大切です。本人のことを思い、どうしても言ってあげなければならないときには、よく言葉を選び相手のことを思いやりながらアドバイスしてあげて下さいね。

大不況の時は、仕事やお金まわりが以前と比べてよくなりますので、大人も子どもも皆カリカリすることが多くなると思われます。このような時こそ、自分を含め潜在能力や長所・よさを見つけて伸ばすようにし、他人の短所や欠点は口にしないほうがよいと思われます。自分と同じように、皆つらい思いをしているのですから…。

4. 「学び方を学ぶ」能力・スキルを身に付けよう

Q：どのように学んだらよいのですか。

A：「学び方を学ぶ」能力・スキルを身に付けることです。英語では Learning To Learn (ラーニング・トゥ・ラーン)と言います。ここで言う「学ぶ」は、英語の Learn(ラーン)ですから、一度 Study (スタディ)、つまり「理解」したことを「身に付ける」という意味です。一度「理解」したことをどう「身に付ける」、つまり「定着」させたらよいのか。その能力・スキルを一日も早く開倫塾で身に付けて下さいね。

5. おわりに

Q：最後に一言どうぞ。

A：開倫塾では、講習会や学期の初日に「開講式」を、各々の最終日に「修了式」を行います。その式の中では十分な時間をとり、また、毎回の授業中には3分間の「武者語り(むしゃがたり)」と称して、先生方が、人生とは何か、なぜ学ぶのか、なぜ進学するのか、進学して何を学ぶのか、どのように学んだらよいのかなどを、また、本や新聞の読み方、ノートの取り方などを少しずつお話するように努めています。ですから、塾生の皆様は、開倫塾の先生方のお話をノートにしっかりメモをして繰り返し読み、自分のものにして下さいね。

大不況は既に来てしまったような感じがしてなりません。だからといって、嘆き悲しんではられません。自分の潜在能力を自分の力で発見し、自覚をもって学び続けることで、この大不況期を乗り切っていきましょう。

皆様はどのようにお考えになりますか。

- 2009年1月15日記 -

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)
(栃木県社会教育委員)
(マニー株式会社、社外取締役)
(社団法人経済同友会(東京)、幹事)

社団法人経済同友会(東京)からの派遣講師として、日本橋中学校の命と心の時間に中学1年生、2年生、3年生全員と、PTA、教職員の皆様の前で1時間お話をさせて頂いた内容です。

私の好きな言葉、感銘を受けた言葉を御紹介させて頂きながら、「命と心」を大切にしながら「よく生きる」ためにはどうしたらよいかを皆様と御一緒に考えたものです。御参考までに御覧下さい。皆様はどの言葉が好きですか。

命と心

- 一生勉強、一生青春(歩きながらゆっくり考えよう) -

経済同友会

林 明 夫

1. 一生勉強、一生青春
2. ブルドック魂(食いついたら離すな)
3. (1)練習で泣いて、試合で笑え
(2)自他共栄(自分も他人も共に栄えよう)
4. 一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心なものごとに取り組もう)
5. (1)法律を学んだ人はいつも最悪の場合を予想して行動すること
(2)外国で知り合った人には、誕生カードとクリスマスカードは出そう
6. 注意一秒、ケガ一生
7. ちゃんと教育を受けていればこのような所(刑務所)に来なくてもよい人ばかりなのに
8. 独立自尊(人間は独り立ちして初めて、自分という人間を大事にすることができる)
9. 練習は不可能を可能にする
10. (1)会った人は皆友達
(2)人生逃げ場なし
(3)本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか
(4)よいことをして忘れること

11. (1) 初心忘るべからず
(2) 離見の見(りけんのけん)
12. 目には遠いが心は近い
13. 励まし合う仲間づくり
14. 中学時代の友達是一生の友達
15. 持続する志(こころざし)
16. 歴史における個人の役割
17. 家庭科(Home Making ホーム・メイキング)、家庭を大切に
18. 5S(整理、^{せいとん}整頓、^{せいそう}清掃、^{しつけ}清潔、^{しつけ}躰)
19. ^{しつけ}躰とは「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」と「敬語表現を^{ふく}含む言葉遣い(ことばづかい)」
20. 教育ある人とは勉強し続ける人
21. 読書で思慮深さ(しりょぶかさ)と自省心(じせいしん)を - 書き抜き読書ノート -
22. 新聞を読んで考える力、批判的思考能力(ひはんできしこうのうりよく)を
23. あいさつ第一、服装第一
24. 早寝、早起き、朝ごはん(食育)
25. 健康第一(心の健康、身体の健康)
26. 自覚をもって学ぶ
27. いつまでも若々しく生きる
28. ゆっくり歩きながら考えよう

以上

学習塾、予備校、私立学校の経営者のための専門誌「月刊私塾界」からの御依頼で執筆させて頂いた「言語力検定の活用方法」についての文章です。

OECD(経済協力開発機構)のPISA(15歳時の国際標準学力テスト)型の学力を身につけるために開発された「言語力検定」を活用することによって、真の学力を身につけるにはどうしたらよいかを考えました。是非、御一読下さい。

PISA型学力を身につけるために

- 言語力検定の活用方法を考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

15歳時の国際標準の学力調査であるPISA型学力を身につけるにはどうしたらよいか。

このテーマは、フィンランド文部省とOECDの共催でヘルシンキ大学で開かれた3日間の国際会議に数年前に参加して以来、ずっと頭から離れることがなかった。

そのような中、今秋、財団法人文字・活字文化推進機構がPISA型読解能力を育成するために「言語力検定」を実施すると聞き及び、これほど有難いことはないと感じた。

初めての試みであるため、開倫塾では、「言語力検定」の主催団体である文字・活字文化推進機構の先生方から何回かお話を伺い、実施を検討。本年度は、手始めに希望する先生方と塾生、500名弱が受験をさせて頂くこととなった。

来年度からは、本年度の経験を踏まえ、全ての先生、全塾生を中心に保護者や地域社会にも呼びかけた全塾挙げての取り組みにしたいと考える。

2. PISA型学力を身につけるために

PISA型の学力を身につけるためには、PISAの基底となる学力観である「キー・コンピテンシーズ(鍵になるような基本的能力)」についての以下のような理解が欠かせない。

(1)「キー・コンピテンシーズ」の内容は3つある。

知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力(知識基盤型社会に対応するための能力)

多様な集団で交流する能力(グローバル化社会に対応するための能力)

自律的に活動する能力(課題山積の社会に対応するための能力)

(2)「キー・コンピテンシーズ」を身につける前提となる能力が3つある。

Learning To Learn(学び方を学ぶ)能力

読書により思慮深さを身につける能力

新聞を読み考え「批判的思考能力」を身につける能力

(3)「人生の成功」と「正常に機能する社会づくり」がこの「キー・コンピテンシーズ」の目的で、学校を卒業した後も生涯にわたって身につけることが求められる。

(4)以上、PISA 型学力の背後にある「キー・コンピテンシーズ」について基本的な考えを十分理解した上で、その具体的な展開方法を考えれば、PISA 型の読解能力は身につけ、「言語力検定」のよい対策となる。

3. 「言語力検定」の活用方法とは

(1)年齢相応の読書を十分にした人は PISA 型学力が高く、そうでない人は低いと言われる。

読書により求められる能力は思慮深さ、自省心、省察能力であるから、それに値する本の選択、図書館の活用方法などの指導が欠かせない。

これぞという本は 6 回読み込むこと、心に響いた文章は「書き抜き読書ノート」に書き写すこともお勧めしたい。

(2)小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分以上、新聞を毎日読む習慣を身につける指導も不可欠だ。社会で生起している問題を広く知るために、できれば一面からなめるように読む指導が望ましい。新聞を読んで求められる能力は、自分で考える力、批判的思考能力である。

新聞を読み、関心のある記事を切り抜いてノートに貼り付け、コメントを書く指導は有用である。

4. おわりに

PISA 調査は、高校卒業程度、大学卒業程度と少しずつ種類が増えると聞き及ぶ。3 年ごとの調査の結果が発表されるごとに一喜一憂することのないように、教育の成果は一人ひとりの人生を決定すると同時に国の運命も決するものなので、国を挙げての国家戦略としての取り組みを期待したい。

- 2009 年 11 月 3 日ヨハネスブルクにて記す -

下野新聞は、栃木県内で 30 万部以上発行されている日刊紙です。

10 月より下野新聞社くらし文化部の御依頼で、毎月 2 回(第 2 日曜日と第 4 日曜日)「必勝受験塾、林明夫塾長の中 3 生指南」を 3 月末日までの予定で執筆させて頂いております。読みやすいように QandA の形で書かせて頂いております。御参考までに 10 月と 11 月、4 回分の内容をお読み下さい。

また、御意見、御要望等がありましたら是非お寄せ下さい。

来春高校受験に臨む中学3年生にとって、時期に応じた対策が大切です。開塾塾(足利市)の林明夫塾長が受験生「ウカルさん」の疑問に答える形で、勉強の方法や志望校の決定などについてアドバイスします。第1回は模擬テストの活用方法です。

◇ ウカル 模擬テストを効果的に活用するには、どうすればいいですか。

塾長 模試で間違っ

模擬テストの活用

た問題を徹底的に分析(誤答分析)することです。試験終了直後に、一問、一問丁寧に問題を検討。間違った問題

辞書などで、なるほどとよく分かるまで理解することがまずは大切です。理解はしているが、

の練習が必要です。ウカル どんな練習ですか。具体的に教えてください。

出るまでにする繰り返し練習です。ウカル 応用問題ができない場合はどうしますか。

塾長 過去に入学試験や模擬試験で出題された問題を少なくとも5〜6年分、できれば、4〜5回ずつ実際に解いてみるのが最も効果的です。過去問を解き、できなかった問題について、先ほどの誤答分析を行うと応用力

が付きます。本日の下野模試も、誤答分析が終わったら、5〜6回解き直すことをお勧めします。応用力が確実に身に付きますよ。

誤答分析で偏差値アップ

について、なぜ正解しなかったのか、本当の原因を考えます。もし、問題や設問の内容がよく分かっている、つまり理解不足が原因ならどうするか。教科書や参考書、

うろ覚えや、うっかりミスが原因ならどうするか。一度なるほどと理解した内容を正確に身に付ける、つまり定着させるためには三つ

ることですが声を出して読む音読練習。正確に書けるまでにする書き取り練習。基本的な問題を何度も解くことで、見た瞬間に答えが

ることで声を出して読む音読練習。正確に書けるまでにする書き取り練習。基本的な問題を何度も解くことで、見た瞬間に答えが

塾長 過去に入学試験や模擬試験で出題された問題を少なくとも5〜6年分、できれば、4〜5回ずつ実際に解いてみるのが最も効果的です。過去問を解き、できなかった問題について、先ほどの誤答分析を行うと応用力

が付きます。本日の下野模試も、誤答分析が終わったら、5〜6回解き直すことをお勧めします。応用力が確実に身に付きますよ。

必勝受験塾

林明夫塾長の中学3生指南

1



林明夫塾長

1950年足利市生まれ。塾生数6500

人、社員数350人と県内有数の規模の学習塾・開塾塾塾長。CRR栃木放送で「開塾塾の時間」を担当。宇都宮大学大学院客員教授、マニーマニ社取締役などを務める。



イラスト/ 伊藤寛代

SHIMOTSUKE GRAPHICS

「自分は受験生である」「自分の未来は自分で切り開く」「志望校合格は自分の力で勝ち取る」という自覚も欠かせません。皆さん、がんばりましょうね。

必勝受験塾

林明夫塾長の中学生指南



2

中学3年生にとって
 高校入試は来春に迫っ
 ています。効果的に勉
 強するにはどうすれば
 いいか、受験生・ウカ
 ルさんは悩んでいま
 す。推薦入試の作文対
 策なども含め、開倫塾
 の林明夫塾長がアドバ
 イスします。

◇ ◇

ウカル 効果の上
 げる受験勉強法を教え
 てください。

塾長 受験生として
 の自覚をもって、一日
 一日を大切に過ごさ
 てください。

効果の上がる勉強法

時間 できるだけ多くとる

ウカル 受験生とし
 ての自覚とは何です
 か。

塾長 何のために受

か。

塾長 読書をする

と、自分自身を振り返
 る自省心や思慮深さが

で手が回りません。

塾長 いつもカバン

の中に1〜2冊の本や
 昨日の新聞を入れてお

き、勉強の合間、合間

に読むことをお勧めし

ます。推薦入試の作文
 や面接でも、読書や新

聞はとても役に立ちま
 すよ。

ウカル 効果の上
 げる勉強法を教えてください。

塾長 勉強時間を
 できるだけ多くとること
 が大事。夕方学校から
 家に帰り、夕食までの
 1〜2時間、夜、寝る
 前の1〜2時間、朝少
 し早く起きて、朝食ま
 での1〜2時間、確実
 に机に向かうことで
 す。これだけでも3〜
 6時間はできますよ。

学校が休みの日に
 は、学校の平日の授業
 時間にあわせて昼間勉
 強することがコツで
 す。夜は、7〜8時間
 睡眠をとりましょう。

ウカル どのように
 勉強したらよいのです
 か。

塾長 各科目ごと
 に、自分はこれで勉強
 するのだという教材を
 いくつか決めること。
 教材を決めたら、繰り
 返し勉強し、隅から隅
 まで一語残らず覚えて
 しまうこと。これが受
 験勉強のコツです。
 (次回は11月8日掲
 載予定です)

験するの、合格した
 ら高校で何をすること
 をはつきりさせること
 です。

ウカル えっ、そん
 な難しいことはありま
 せん。どうしたらそのよ
 うな自覚がもてます

身になります。読書
 して、どのような人生
 を歩みたいのかを自分
 の力でお考えくださ
 い。

新聞を読んで考える
 と、批判的思考能力が
 身につきます。新聞を
 読んで、社会ではどの
 ようなことが起こって
 いるのか知り、何のた
 めに学ぶのか、受験勉
 強をするのかをお考え
 ください。

ウカル 受験勉強で
 忙しくて、本や新聞ま



イラスト/ 小林隆一 SHIMOTSUKE GRAPHICS

高校受験への不安や悩み、疑問など
 をお寄せください。受験生と保護者を
 応援する記事の参考にします。320=86
 86、宇都宮市昭和1の8の11、下野新
 聞社くらし文化部「必勝受験塾」係。メ
 ールはkurashibun@shimotsuke.co.jp



林明夫塾長の中3生指南

3

進路や志望高校を決める時期になりました。希望に胸が膨らむ一方、不安も感じている受験生のウカルさん。開倫塾の林明夫塾長は「高校卒業後まで見据えよう」とアドバイスします。

◇ ◇

ウカル 高校入試までもう数カ月となりました。進路や志望校はどのように決定したらよいのでしょうか。

塾長 大切なことは、高校を卒業してからの進路をどうするか。

進路希望と志望校の決定

るかで高校を決めることとです。

ウカル 塾長はどのように高校を決めたの

受験生の自覚を持とう

に進学して外交官試験に合格しようと自分なりに方向付けました。そこで、どのような

ら世の中がどのようになるのかを新聞を読んで考えること。どのような人生を歩んだらよいのかを本をしつくり読んで考えること。自己責任、自助努力で決めて下さい。自

ですか。

塾長 「将来は弁護士か外交官になりました」と思っていたので、どうすればなるかを調べました。弁護士になるためには大学に進学して司法試験、外交官になるためにも大学

大学に進学すれば司法試験や外交官試験に合格するか。そのような大学に合格するには、どのような高校のどのような科やコースに進学すればよいかを考え、足利高校普通科を志望校として選択しました。

ウカル 高校の卒業後のことまで、あまり考えていないのですが。

塾長 今はどのような社会なのか、これか



イラスト/小林隆一 SHIMOTSUKE GRAPHICS

分の未来は自分の努力、自分の責任で切り開くという意志をもつこと。義務教育は9年間で終了するのですからね。

学校公開日や運動会・文化祭などの日に実際に高校に行ってみる

ことです。在学生や卒業生から学校の特徴を聞くことも大切です。

高校に進学して何を学ぶかもはっきりさせて下さいね。

ウカル 成績が少し足りないのですが…。

塾長 自分は受験生だという自覚をもち、受験生としての生活に徹すれば、合格まで少し足りない成績もカバーできます。

夜は7〜8時間しっかり眠り、食事は3食

きちんと摂り、あとは勉強。将来をしっかりと見つめ、義務教育9年間の総仕上げと考え、受験勉強に励んで下さいね。

(次回は11月22日掲載予定です)

高校受験への不安や悩み、疑問などをお寄せください。受験生と保護者を応援する記事の参考にします。320=8686、宇都宮市昭和1の8の11、下野新聞社くらし文化部「必勝受験塾」係。メールはkurashibunka@shimotsuke.co.jp

必勝受験塾

林明夫塾長の中学生指南



4

志望校に合格できるだろうか。受験生のウカルさんは不安や悩みを抱えながら勉強に励んでいます。開倫塾の林明夫塾長は「今の勉強は高校入学後も役立つし、社会に出てからはもっと役立つ」と励まし、受験生を支える保護者の役割についてもアドバイスします。

◇ ◇

ウカル 高校入試に合格するかどうか心配で、勉強が手につきません。どうしたらよいでしょうか。

受験生の心理

自覚強くもち不安除く

塾長 自分の進路を決定する生まれて初めての本格的な試験です。不安なのはよくわかります。でも、不安なのはあなた一人だけではありません。ウカル 不安を取り去るにはどうしたらよいのですか。

塾長 自分は受験生

つたら勉強しましょうね。

つ親の役割とは何ですか。

塾長 義務教育はもうすぐ終わるのだから、これからは自己責任、自助努力が大切。

自分のことは自分の力で考え、自分で考えて決めた高校には自分の力で合格しなさい。そう言っ、受験生としての自覚を本人に促す

ことが親の役割と考えます。

保護者 親としての方がよいこと、しない方がよいことはありますか。

塾長 お子様勉強中は、テレビの音を少し小さめにしたり、あまり大きな声で歓談することはお控えになることをお勧めします。

できれば、静かに読書をしたり、新聞などをお読みにたり、読書により思慮深さを、新聞を読み批判的思考能力を大人として身につける姿を、親は受験生に見せることをお勧めします。

勉強は高校合格まですればよい、あとは遊んでよいなど決して口にしないようお願いいたします。合格後、本当

に勉強しなくなるからです。

怠け者には福は来ない。今やっている勉強は高校入学後も役に立つし、社会に出てからはもっと役に立つ。しっかり受験勉強をするようにと励ますのも親の役割と考えます。

(次回は12月13日掲載予定です)

けではなく、受験生全員なのです。

心配だ、心配だといくら悩んでも、成績は上がりません。悩む時間、心配する時間は一日30分までと決めて、悩み、心配する暇があ

であるという自覚を強くもつことです。これからは、自分の未来は自分で切り開く。自己責任、自助努力で生きる第一歩が高校入試だと考えましょう。

自分の行きたい高校を自分にとっての「一流校」と考え、「一流校」合格に向けて受験生としての自覚をもつて毎日を大切に過ごしましょう。

保護者 受験生をも



イラスト/小林謙一 SHIMOTSUKE GRAPHICS

高校受験への不安や悩み、疑問などをお寄せください。受験生と保護者を応援する記事の参考にします。320-8686、宇都宮市昭和1の8の11、下野新聞社くらし文化部「必勝受験塾」係。メールはkurashibunka@shimotsuke.co.jp

皆様の御理解、御協力のお陰をもちまして、日本生産性本部のサービス産業生産性協議会主催の「ハイ・サービス日本300選」に開倫塾が選定され、10月29日に東京、竹橋のKKRホテルで表彰の栄を賜りました。

学習塾業界としての受賞は、私立中学校入試専門予備校の「日能研」様、個別指導専門塾の「明光義塾」様、それに我が「開倫塾」の3塾であります。栄えある高品質サービス産業受賞企業として、これからも努力を重ねたく存じます。この文章は、関係者へのお知らせです。

2009年11月吉日

各位

第7回「ハイ・サービス日本300選」受賞の御礼

開倫塾

塾長 林明夫

拝啓 暮秋の候、皆様におかれましては益々御健勝のことと御慶び申し上げます。日頃より開倫塾へのご理解ご協力を賜り、深くお礼申し上げます。

さて、この度開倫塾は、サービス産業生産性協議会による「ハイ・サービス日本300選」の第7回受賞企業に選出されました。これも偏に皆様の御力添えの賜物と衷心より感謝申し上げます。

今年度の選出企業は27社、受賞企業はいずれもチャレンジ精神を持ち、創意と工夫でイノベーションと生産性向上を果たしている企業です。

ご紹介いただいた内容は以下に掲載致しますので、ご一読いただければ幸いです。

今後とも御指導御鞭撻賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

サービス産業生産性協議会は、サービス産業の生産性向上を国民運動として推進する母体として、日本生産性本部により設立された会であり、「ハイ・サービス日本300選」は、イノベーションや生産性向上に役立つ先進的な取り組み（ベストプラクティス）を行っている企業を表彰・公表することで企業の一層の取り組みを喚起し、優良事例を広く普及・共有することで、サービス産業全体のイノベーションや生産性向上を促進することを目的としています。

(サービス産業生産性HPより一部引用)



表彰式の模様

(左は塾長林明夫と、
右は経営品質担当の開倫塾塾長室室長高尾初江先生)

サービス産業生産性協議会

「ハイ・サービス日本300選」受賞!

表彰状

ハイ・サービス日本300選

株式会社 開倫塾 殿

貴社は創意工夫と熱意をもって
生産性向上に優れた成果を挙げ
サービス業に従事する者の目標と
すべき企業であると認められます
よってここに「ハイ・サービス日本300選」
企業として表彰します

平成21年10月29日

サービス産業生産性協議会

代表幹事 牛尾 治朗



カリキュラムや講師のレベル向上により、質の高い教育サービス提供に努める学習塾

企業・団体名： 株式会社開倫塾
URL <http://www.kairin.co.jp/>
業 種： 教育（学習塾）
所 在 地： 栃木県足利市(関東)
事 業 概 要： 小学生・中学生・高校生対象の学習指導
企業・団体特性： 市場特性： ニッチスペシャリスト型
業 態 特 性： ハイバリュー型
取 引 特 性： B to C型
環 境 特 性： 地域サービス型

提供サービス

栃木・群馬・茨城県下に46教室の学習塾を展開。カリキュラムのレベル向上や人材の育成への取り組みなどにより、提供サービスの向上に努めている。

ハイ・サービスのポイント

同社の強みは、明確かつ高い理念の下に、独自の教育カリキュラムの開発や講師の能力育成、ベンチマーキングによるPDCAサイクルの実施による経営品質の向上に努めることで、クオリティーの高い教育サービスの提供を行うと同時に、社会や地域に対する貢献にも注力し、高い企業価値を創出している点にある。

- ビジネスのスタート当初は、学校前でのチラシ配りと個別訪問による宣伝で塾生を集めた。塾生が増える 教室数が増え、保護者への認知度が高まる 口コミで塾の評判が上がることで塾生数が拡大。また顧客の利便性を高めるため、「街はずれ立地」による多教室展開を行っている。
- 経営品質向上活動に取り組み、社内ベストプラクティス 同業他社 異業種 のベンチマークを行い、自社のサービスレベル及びベストのサービスレベルを知り、PDCAサイクルによってより良いサービスの提供を徹底する活動を行っている。こうした取り組みが高く評価され、2002年度には栃木県経営品質賞中小企業部門県知事賞を受賞。教育界で経営品質賞の受賞は日本で初めてとなった。
- 学年別、教科別、単元ごとに300種類以上のオリジナル教材を大手教材会社と共同開発し、毎年改定も行っている。補助教材、講義マニュアル、テストなども自社で作成し、使い方の研修会も実施。
- 北関東の教育特性を前提とし、補習塾としてのサービス提供を主軸に、塾生の学年や年齢に合わせて進学塾的な指導も行っている。塾生を偏差値の高い学校に進学させるだけでなく、一人ひとりの塾生の「希望校が一流校」ととらえて受験指導を行っている。2009年からは個別指導をスタート。
- 全講師が授業ごとにレッスンプランを書き、授業後に改善点を自ら探して赤ペンを入れることや、講師同士の模擬授業や教え方向上のための研修会を毎週実施するなど、講師のレベルアップや教育技術の向上に努める。

- 2006年より、講師の指導力向上と指導方法のベンチマーキングを目的に、開倫塾付属機関である開倫研究所の主催により「全国模擬授業大会」を開催。全国の競合塾から講師が参加し、互いの指導方法を競い合う。指導方法の研究や練習を行うことで工夫や研修の機会が生まれ、本番でも各塾の取り組みの披露によって新たな気づきが生まれることから、参加講師や塾経営者の評価も高く、講師のモチベーションアップにもつながっている。
- 新入社員研修や事務社員研修、マネジャー対象の研修や時間講師への研修など様々な研修メニューを用意し、人材の育成や能力の開発に努めている。
- 2001年より日本ユネスコ協会連盟に加盟し、識字活動「世界寺子屋運動」への参加や童話、ポエム、エッセイ、デザインなどの各種コンクールの主催、平和への祈りを込めた「平和の鐘を鳴らそう」運動などを行う「開倫ユネスコ協会」の全面支援など、様々な社会貢献活動を行っている。また、東日本盲導犬協会やルワンダの教育を考える会などへの支援、栃木女子刑務所内での更正教育支援、栃木市放課後子ども教室の支援なども行っている。
- 2001年より、開倫研究所による教育相談室を開設。相談料無料・秘密厳守で、塾生に限らず、広く北関東地区の小中学生・高校生・保護者から相談を受け付け、不登校などの問題解決に大きく貢献している。
- 創業30周年で、校舎数は栃木県・群馬県・茨木県の3県で46カ所、塾生数約6,500人に成長。



開倫塾本部校



「全国模擬授業大会」を開催し、競合塾が互いの指導法を競い合うことで、講師のモチベーションがアップ



人気のある小学生対象の体験教室「草木染めの様子」